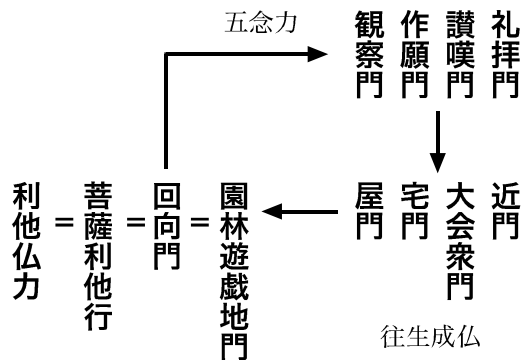
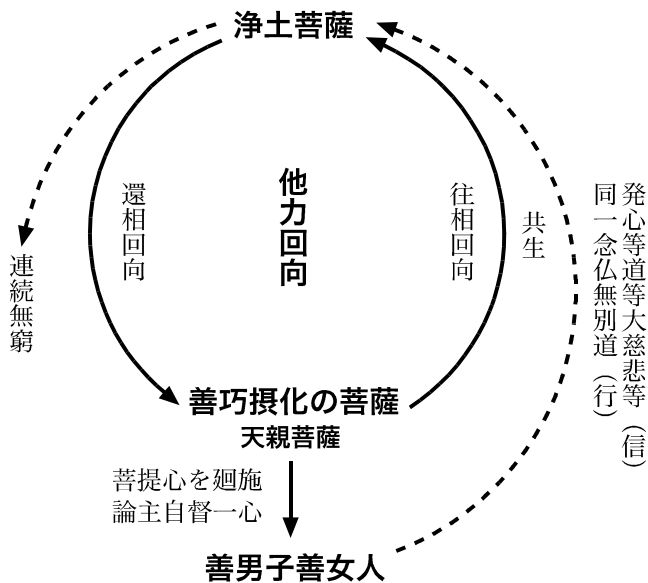




菩薩の回向とは、前四念門の働きを行者に回施するものであり、四念門は四果門を開き、園林遊戯地門の利益に至る、これら因果ともに菩薩の利他行に依る而して、その菩薩利他とは仏力に摂まる



往還二廻向とは、菩薩が、彼土より此土に応現する辺が「還相」であり、行者を往生せしめ、共に往生する辺が「往相」である即ち、往相廻向とは、還相菩薩の往きがけの廻向である

※読み方

以下の論註（利行満足章）の読み方に随うのが、最も確かである

「自利に能わずして能く利他する、に非ず」＝「自利によるが故に則ち能く利他す」

「利他に能わずして能く自利する、に非ず」＝「利他によるが故に則ち能く利他す」

「Aに能わずしてBである、に非ず」＝「Aによるが故に能くBである」★

よって

「若しは因若しは果、一事として利他に能わざること、なし」とは、

まず文の順序を、入れ替えて

『利他に能わずして、若しは因、若しは果、に非ず』

として、★に当てはめれば

→『利他による故に能く因果す（因も果も成就す）』

→『因果は利他に依る』（簡潔表現）

[応用]

更にこれを応用して、浄入願心章の、「因无して他の因の有には非ざるなり」を読んでみる。

今この文を、★に当てはめれば

『因無くして、他の因の有る、に非ず』は、

『因有るによるが故に、他の因が有る』となる。